2004年一般国道336号えりも町斜面崩壊

A report of Slope Failure along Route 336 in Erimo-cho, Hokkaido in 2004

伊東佳彦・日外勝仁／北海道開発土木研究所

Yoshihiko ITO and Katsuhito AGUI／Civil Engineering Research Institute of Hokkaido

1. はじめに

2004年1月13日22時25分頃、一般国道336号の幌泉郡えりも町庶野の宇遠別第一覆道広尾側坑口付近（図-1）で斜面崩壊が発生した（口絵参照）。崩壊規模は、斜面高約100m、斜面長約110m、最大幅約100m、最大厚さ約15m、崩壊土量約40,000m³（写真-1）で、この崩壊に伴い宇遠別第一覆道広尾側坑口付近頂版部分約70mが損壊したと考えられる。なお、この速報は「第1回一般国道336号えりも町斜面崩壊調査委員会」の資料を基に、地形・地質状況および崩壊状況についてまとめたものである。

2. 地形状況

えりも町庶野～目黒付近は、北海道中央部を南北に連なる日高山脈南方にあたり、東側は太平洋に面した海岸線を成している。沿岸には比高200～300mの主尾根列が存在し、主尾根上部には小規模な段丘平坦面が点在している。海岸線に沿う主尾根の海側斜面は、急崖で太平洋に連続し、主尾根と直交する小尾根地形が複数分布している。国道336号は海岸線と急傾斜地の間を通過しており、崩壊箇所は細尾根地形突端部にあたり、比高100m以上、傾斜50°の急傾斜地を形成している。

図-1 崩壊位置図

写真-1 崩壊状況（全景）

所は細尾根地形突端部にあたり、比高100m以上、傾斜50°の急傾斜地を形成している。

3. 地質状況

崩壊箇所は日高山脈を形成する日高帯主帯分布域の南端部にあたり、広域地質は、ホルンフェルス、片麻岩、ミグマタイトなどで構成される日高変成岩類であり、崩壊箇所周辺では西方約3kmで南北に連続する猿留せん裂帯が分布し、ホルンフェルスとミグマタイトの地質境界をなしている。崩壊地は、白亜紀の堆積岩が熱変成したホルンフェルスを主としており、南北性の貫入岩帯が小規模に点在している。ホルンフェルスは走向NW-SE、北方に40～60°で傾斜する層理を主としている。

4. 崩壊状況

崩壊により当初1つの斜面傾斜であった部分がえぐられた形で滑落し、谷状の地形を形成している。崩壊により覆道の一部は破壊され（写真-2）、岩塊は海岸にまで達している（写真-3）。岩塊中には多くの樹木が巻き込まれており、急崖頂上付近を巻き込んだ崩壊と考えら

写真-2 覆道状況

写真-3 えりも側（南側）からみた崩壊状況（近景）

写真-4 広尾側（北側）からみた崩壊状況（近景）

れる。また、積雪の状況から大規模崩壊後も小規模な崩壊が起きていたと推定される（写真-4）。

崩壊面は、節理面が明瞭で白く平滑な部分（原岩は砂岩だと考えられる）と、節理面は不明瞭で黒っぽく凹凸の多い部分（原岩は泥岩、砂岩・泥岩互層と考えられる）とが複雑に入り組んでおり、2系統の流れ盤方向の節理面が認められる（口絵参照）。

（原稿受付2004年2月23日，
原稿受理2004年2月25日）